

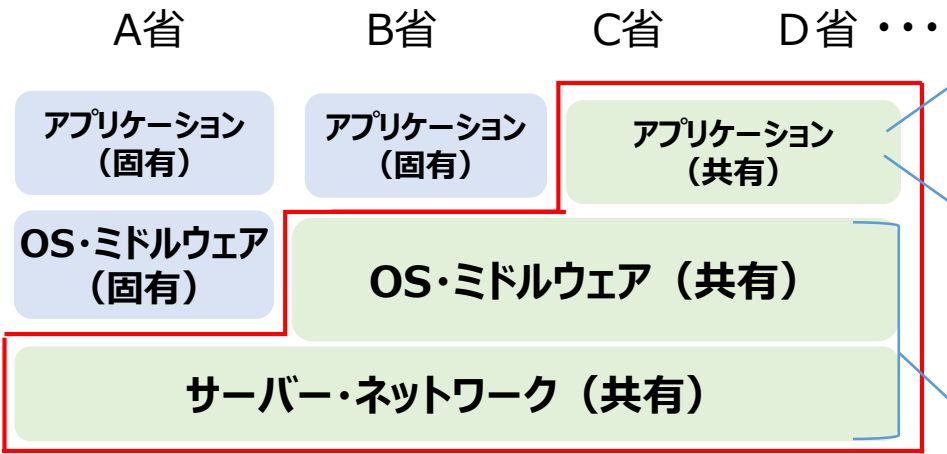
政府情報システムの予算要求から執行の各段階
における一元的なプロジェクト管理の強化について
(参考)

令和元年6月4日

○ デジタルインフラについての基本的な考え方

- デジタルインフラとは、「**政府全体で共通的に利用するシステム、基盤、機能等**」
- 現行の府省共通システムを中心にデジタルインフラと位置づけ、一括して整備。府省独自システムは、原則としてこれを利用していく

<デジタルインフラの範囲のイメージ（赤枠部分）>



- 府省共通に行う業務や、複数の府省で共同・連携して行う業務に係る政府情報システム (例) 人事給与、旅費等の内部管理業務 など
- 府省横断的に利用・参照される社会の基本データに係る政府情報システムや機能 (例) 法人に係る基本情報 など
- ITサービスの稼働環境に係る機能で共通化に馴染むもの (共通化に馴染むか否かは技術進歩に応じて見直し) (例) サーバー、ネットワーク、OS・ミドルウェア、セキュリティ・認証 など

- ※ デジタルインフラ整備のイメージ
- 情報システム（クラウドサービスを含む）を一括して整備し、複数省庁で利用
 - 共通仕様やデータ構造・分類体系の標準を策定し、当該仕様等を用いて整備・運用

○ 年間を通じた一元的なプロジェクト管理の実施の方向性

- 予算編成プロセスと従来のプロジェクト管理の関係においては、予算の把握時期が概算要求後であり、重複投資等があっても実質的な調整が困難（**予算要求時では遅すぎる**）な一方で、予算要求段階では仕様の詳細が固まっておらず、経費の厳密な見積もりが困難な場合がある（**予算要求時では早すぎる**）
- このため、政府CIOの指揮の下、予算要求前から予算編成段階、予算執行段階まで、**年間を通じた一元的なプロジェクト管理**を実施。経費の妥当性のみならず、デジタルインフラの整備・利用、デザイン・データの標準化、セキュリティレベル共通化等を推進
- 加えて、政府情報システム全般について、デジタルインフラの利用可能性を聖域なく検討するため、情報システム関係予算の包括的な実態調査を実施し、全体像をより正確に把握

<年間を通じた一元的なプロジェクト管理の実施イメージ>

予算要求前レビュー

(プロジェクトの計画段階)

- 主として、システム化の基本方針（クラウド化の可否、関連サービスとの連携・重複投資の精査等）や概算費用等を検証
- 政策的意義・費用対効果等についても検証
- デジタルインフラの整備、利用については、該否や横展開の見込み等も検証

予算編成段階

(プロジェクトの具体化段階)

- 要求前レビューで発見できなかった重複投資等の懸念のある案件の是正や、関連サービスとの連携強化を指示
- 機能ごと等の詳細な投資の是非について、予算編成に向けて整理、調整

予算執行前レビュー

(詳細仕様の検討段階)

- サービス目線での業務見直し(BPR)、デジタルインフラの活用、セキュリティ等の観点から仕様と経費の妥当性等について検証
- 一括計上された予算については、レビューを基に予算配分を決定

○ 達成目標のイメージ

- これまで継続的に実施してきた運用等経費の削減の取組に加えて、クラウドサービスの利用、重複機能の共通化、保守性の高いシステムへの刷新等により、2020年度時点での政府情報システムの運用等経費及びシステム改修に係る経費を、**2025年度までに3割削減することを目指す**
- 制度改正や業務改革に伴い発生する改修は必然的なものであるが、このように**必要となる改修を、従来と比べて低廉に実現**していくため、システムの刷新等を進める
- 一方、新規システムの構築やシステムの刷新自体に必要な経費については、事務作業の効率化や運用等経費の削減見込みといった効果を正確に把握し、**投資対効果が十分に見込まれる投資に注力する**

